島根大学医学部附属病院 ワークライフバランス支援室

島根大学医学部附属病院 ワークライフバランス支援室

平成23年度　**事業紹介**

career support, counseling, sustainability……

ワークライフバランス支援室は、皆が働きやすく学びやすい医学部・附属病院を目指して活動しています。

医学部全構成員へ　地域社会へ

支援室の活動目標

医療職の就労継続・離職防止
↓
全職員のワークライフバランスの促進・満足度アップ
↓
患者の心身の健康を回復させる場・医療の担い手を育成する場としての「質」を確保
↓
医学生・看護学生・研修医・コメディカルスタッフ・教職員にとって「学びたい・働きたい」病院へ
↓
地域と共に医療の崩壊を食い止め、地域医療の再生を！

ワークライフバランス支援室の歩み

	【医学部・附属病院の動き】	【全学的な動き】
H16年	保育所設置のためのWG	
H17年	院内保育所開設準備	次世代育成支援事業主行動計画の策定・実施
H18年	女性にやさしい病院WGの設置 「うさぎ保育所」開所 「働きやすい病院評価」認証取得	男女共同参画推進委員会の設置 男女共同参画基本理念・基本方針の決定 **男女共同参画WGの設置**
H19年	医療人GPに選定 「女性スタッフ支援室」開室 女性スタッフ支援室 HP 開設	全学的意識啓発活動や情報発信開始 女性研究者のニーズ調査 現状分析と部局長ヒアリング実施
H20年	病児・病後児保育室 「ニコニコうさぎ」開室 相談窓口開設	JST事業「女性研究者支援モデル育成」採択 **男女共同参画推進室「さぼっと」**開室 女性支援カウンセラー全学配置
H21年	「うさぎ保育所」の拡張・定員増 GP 事業終了	**「さぼっと」HP開設** 研究支援員配置制度開始 派遣型病後児保育システム構築
H22年	**「ワークライフバランス支援室」**に改称 学童一時保育開始	保育サポーター養成講座開講
H23年	ランチョントーク開始	JST事業終了

メディカルスタッフ用 “マタニティ白衣” の開発

ートピックスー

平成２２年秋、「妊娠中の女性医師が快適に着ることができる白衣が欲しい」という本学職員からの要望をきっかけにして調べたところ、看護師のマタニティ用白衣は種々市販されていますが、医師用のマタニティ白衣がないことが判明しました。これまでの女性医師の多くは、妊娠後期になると白衣の前ボタンを外したり、男性用の大きなサイズの袖を折り返して着たりしていたのです。

「なければ自分たちで作ろう！」と、ワークライフバランス支援室では地元の白衣メーカーとともに医師用マタニティ白衣の共同研究・開発を始めました。平成２３年８月、ようやく研究用の白衣が完成し、記者発表を行って披露しました（平成２３年５月３０日特許出願済）。今後はこの白衣を使って学内でモニター調査を行い、さらに改良して平成２４年の実用化を目指します。ワークライフバランス支援室では、実用版の白衣が完成すると、マタニティ白衣が必要な職員には誰にでも必要な時期に貸し出しするレンタル制度を開始します。

当支援室が開発中のマタニティ白衣は、医師のみならず医療技術職・薬剤師などのほか、実験系の研究職や技術職、教員など広範囲の職種で利用可能です。本白衣の開発は、理工農分野の若手女性研究職・技術職への支援という観点からも社会的に大きな意義を持つのではないでしょうか。

記者発表時に披露した白衣

情報発信

ワークライフバランス支援室ホームページの更新やメールマガジン（月１回、全職員向け）の配信を通して、室活動のPR、講演会など各種イベントのご案内などの他、学内の両立支援制度の周知や意識啓発のためのロールモデルの紹介を行っています。病児・病後児保育室（ニコニコうさぎ）の事前登録や相談窓口の利用申し込みフォームもホームページからダウンロードできます。

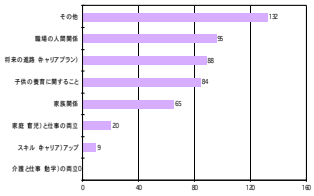
http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/wlb/

相談窓口

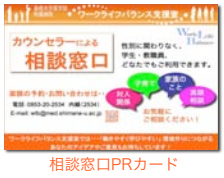
週3回2名のカウンセラーが来室し、学生・教職員の様々な悩み・不安解消のため、親身になって相談に応じています。個人的な悩みの他にも、職場環境の改善につながる意見、提案も受付ています。カウンセラーの業務は相談受付の他にも、看護部と連携したストレスマネジメント支援、学生相談に関わる教職員への支援も積極的に行っています。

相談窓口の利用状況　（平成20~23年度末）

相談者の内訳



相談内容の内訳



相談窓口PRカード

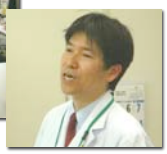
相談窓口面談室

キャリア教育

新人看護師・研修医・学部学生を対象とした講演会・座談会などの開催を通して、医療人としてのモチベーションを高め、現場定着、離職防止を図ります。

平成23年1月から、昼食を共にしながら先輩医療職と学生や研修医が交流する企画「ランチョントーク」を毎月実施しています。多彩なゲスト出演に参加者から毎回大好評です。

開催PRポスター



第5回ランチョントークの様子

平成23年度からは学部生への初期教育として、医学科・看護学科１年生対象の総合講義「島根学～しまねの医学・医療と文化の歩み」の一コマに組み込んだ講演会を企画しました。初年度は、6月９日、埼玉医科大学名誉教授・国際女医会前会長、平敷淳子先生を演者に迎え、「夢をあきらめないために」というタイトルで開催しました。医学科・看護学科１年生113人が受講し、平敷先生のインパクトのある講演内容に熱心に耳を傾けていました。

「島根学」平敷先生講演会の様子

時短勤務の提供・復帰支援

看護師や保育師の資格を活かした家庭と仕事の両立のためのフレキシブルな勤務の紹介や提供、復帰支援などを行っています。

◆病棟保育：支援室のスタッフが附属病院の小児科病棟で保育を実施し、患児の療養の質の向上や保護者負担の軽減に寄与しています。

◆検査部での短時間勤務：子育て中の離職看護師を附属病院中央検査部採血室での採血担当者として短時間雇用し、検査部での待ち時間短縮に寄与しています。

保育支援

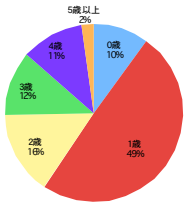
島根大学医学部附属病院　病児・病後児保育室　ニコニコうさぎ

病児・病後児保育室「ニコニコうさぎ」の運営を行っています。看護師・保育士の2名体制で、お子様の病気の回復に配慮したきめ細かい保育が好評です。平成20年度の開設から現在までの事前登録者数はのべ121人、実際の利用者数も477人に達しました（平成23年3月31日現在）。利用者の職種も、医療系職員だけでなく教員・事務系職員・大学院生など多岐にわたっています。平成22年度からは、本学が業務を委託する事業者の職員の方も利用することができるようになりました。院内保育所や附属病院小児科と連携した代理受診制度も確立しています。

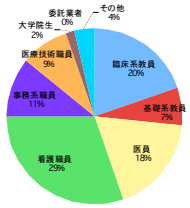
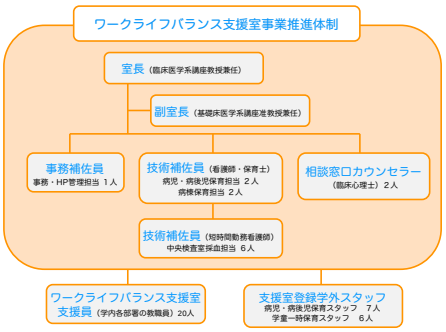
「ニコニコうさぎ」保育室

平成22年度10月から、小学校下校後や学童クラブ終了後の時間帯に対応して、教職員のお子様（小１～４まで）を支援室内で預かる学童一時保育も開始しました。

病児・病後児保育の利用状況　（平成20~23年度末）



保育児童の年齢



利用者（保護者）の職種